

図表1 資産形成に取り組んでいる人に確認したい項目

- ☑ 短期的な相場に動揺したことがあるか。例えば、相場が大きく上昇または下落した際に、「いつ売るべきか、少し売却すべきか」と悩んだことがあるか
- ☑ いざ資金が必要になった際に、どの商品から解約すべきか悩んだことがあるか
- ☑ まとまった資金が必要な際に、運用環境が良く「日々残高が増えている。もう少し運用しておきたい」と現預金からまかかったことで、現預金の比率が極端に低くなったことがあるか

図表2 NISAとiDeCoの主な特徴

	NISA	iDeCo
売却益・配当 (分配金)	非課税	
掛金	—	全額所得控除
換金	制限なし	少なくとも 60歳まで引き出せない
投資目的	教育費、住宅購入、 家族旅行、 老後資金など	老後資金

(出所) 図表1・2ともに筆者作成

投資は人口より出口が難しいと言われるように、いざ資金が必要になった際の判断を難しいと感じた人も多いだろう。筆者も「子どもが留学することになったので、100万円程度換金したい」と口座残高を眺めながら、決断できずにアドバイスを求められたことが幾度もある。

5本のファンドを持つている場合、これを機にリバランスを行うと

**非課税メリットが裏目に出る可能性も**

投資は人口より出口が難しいと言われるように、いざ資金が必要になった際の判断を難しいと感じた人も多いだろう。筆者も「子どもが留学することになったので、100万円程度換金したい」と口座残高を眺めながら、決断できずにアドバイスを求められたことが幾度もある。

一方、NISAが非課税であるがゆえに、頻繁に売買している人もいる。課税口座であれば利益に約20%の所得税・住民税が課されるが、NISAならばそれを気にする必要がない。課税されないというのも一つのセオリーではあるが、明らかに他の商品よりも利益が出ているものから多く解約することに抵抗を感じる人もいる。

子どもが留学で必要であれば、いざというときに「やっぱりあのとき、予定どおり解約しておけばよかった」と後悔する人も少なくない。

り、「オルカン」をはじめとした世界株式インデックスファンドなど海外のアセットクラスに投資をしている場合、為替差益も運用成果を押し上げています。

こういった投資環境下で大きな含み益を抱え、「一度売却した方が良いのでは」と悩んだ人は多い。もちろん、一時的な大きな下落で不安を感じた人もいます。その際に行動に移したのか、実際にどのような意思決定をしたのかをヒ

きな含み益を抱え、「一度売却した方が良いのでは」と悩んだ人は多い。もちろん、一時的な大きな下落で不安を感じた人もいます。その際に行動に移したのか、実際にどのような意思決定をしたのかをヒ

# NISAとiDeCoはこのように使い分けを提案しよう

内山貴博 内山FP総合事務所株式会社 代表取締役  
ファイナンシャル・プランナー

ここでは、NISAとiDeCoの特徴を押さえたうえで、それぞれの使い分けをどのように提案するかを解説する。

**N**ISAは特に若い年齢層に対して、投資に興味を持ち、将来について考えるきっかけづくりに大きく寄与していると感じている。

2014年に始まったNISA制度。2016年にはマインナ金利に突入したこともあり、定期預金の金利や学資保険をはじめとした貯蓄型保険商品の予定利率も大幅に低下し、「少しでも資産を増やすには、リスクを取らなければならぬ」というトレンドを加速させた。

こうした環境下で、老後の資金づくりはもちろん、教育費や将来の住宅購入費など様々な目的でNISA口座を開設する人が増えた。明確な目的はないものの、周りがはじめているからと焦燥感に駆られてNISA口座を開設した人も少なくない。

特にiDeCoとNISAどちらも取り組んでいる層に

比べ、NISAのみを行っている層はこういった傾向が強いと感じている。まずはNISAの現状について丁寧に確認することが、iDeCoに関するアプローチにつながるだろう。

**NISA取引開始後に直面した問題を確認**

NISAを中心に、中長期的な様々な目的に対して資産形成に取り組んでいる人は、図表1のような問題に直面したことがあるかもしれない。まずは、こういった経験がないかを確認してほしい。

直近の10年程度は、コロナショックや米関税問題など世界株安の展開に陥ったことが何度かあったが、どれも一時的な影響にとどまり、おおむね株式や投資信託での運用環境は良かったといえる。加えて、円がドルなど主要通貨に対して弱含み展開が続いてお